

2016年度第5回一橋大学政策フォーラム

「インフレーション：理論と現実」



主催：一橋大学・一橋大学経済研究所 世代間問題研究機構／経済社会リスク研究機構

日時：2017年2月17日（金）13時～18時15分（12時30分受付開始）

会場：TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター [ホール7C]

【プログラム】

インフレーションの決定要因や経済主体による期待形成は経済学における重要なトピックであるばかりでなく、わが国においては日本銀行がインフレーション・ターゲット政策を実行していることもあってその理解の重要性が一段と高まっている。今回の一橋大学政策フォーラムではインフレーションに関する理解を深化させることを目的として、わが国でのインフレ期待形成、インフレーションと人口動態の関係など多面的な視点からの学術研究が報告されるほか、政策当局者による基調講演とわが国経済の現状評価およびインフレーションの先行き見通しについてのパネルディスカッションが設けられている。学術研究の成果とわが国経済の現状と見通しの議論を同時に提示することでそれらの連関を問う。

13:00-13:05 開会挨拶 北村行伸（一橋大学経済研究所・所長）

13:05-13:50 キーノートスピーチ 内田眞一（日本銀行・企画局長）
「日本銀行の金融政策と日本経済」

13:50-14:20 報告1 阿部修人（一橋大学経済研究所・教授）
「日本の家計のインフレ期待形成-経済実験による合理的期待形成仮説の検証-」

14:20-14:30 休憩

14:30-15:00 報告2 上田晃三（早稲田大学政治経済学術院・教授）
「人口動態とデフレ」

15:00-15:30 報告3 James Yetman (BIS (国際決済銀行) ・Principal Economist)
“The evolution of inflation expectations in Japan” ※同時通訳あり

15:30-15:40 休憩

15:40-18:15 パネルディスカッション：日本経済の現状と見通し

(インフレーションの動向を中心として)

モデレーター 塩路悦朗（一橋大学経済学研究科・教授）

パネリスト 関根敏隆（日本銀行・調査統計局長）

高田創（みずほ総合研究所・常務執行役員 チーフエコノミスト）

宅森昭吉（三井住友アセットマネジメント・理事 チーフエコノミスト）

村嶋帰一（シティグループ証券・調査本部投資戦略部経済・金利戦略グループチーフ
エコノミスト）

閉会の言葉（総合司会）
小塩隆士（一橋大学経済研究所・教授）

お申込み： 定員に達しましたので締め切りました。ご了承ください。

お問い合わせ：一橋大学世代間問題研究機構
forum170217@ier.hit-u.ac.jp

参加費：無料